

第 22 回 伊東美明(学法石川高校野球部顧問)

信じて根を張れ！ 楯田のボールは信じるヤツの前に落ちてくる(小学館)

帝京大学ラグビー部監督 岩出雅之

毎年、年が明けると箱根駅伝、高校サッカー、大学ラグビーと学生スポーツが日本全国をにぎわしている。学生スポーツは毎年メンバーが入れ替わり勝ち続けるのは難しいとされているが、現在全国大学ラグビー大会を6連覇しているチームがある。今年の全日本ラグビーでも、トップリーグの NEC も倒し素晴らしい結果を残している。その内容をいくつか紹介する。

1、指導者はリスペクトすることから始まる。

チーム自体が勝つようになり選手も集まり始めている中、勝つためによい選手を育てるだけでなく、自分で志望してきた選手も大事にしていかなければならない。簡単な事ではないが何か特徴的なものを探すことも大事である。全員に日本一をとることを描かせる事がまずは指導者として大切である。とにかくモチベーションを上げさせイメージを描かせる。指導者とはこのように上り坂で荷を押すようなものである。

2、指導者のエネルギーだけでは突っ走るな

選手のエネルギーをうまく使い、信頼関係を作る

3、片腕は多い方がよい～スタッフの力

組織力をどれだけ使えるか。やはりその中で数字をうまく使い生徒のモチベーションをあげ、チームないで事業仕訳を行いチームに大切なものを選択すること。

このように各分野にわかれいろいろな内容が書いてある。細かく書くと長くなってしまうため以下は省略して書いていきたい。

4、できる人間を基準にしない～7割の法則で伸ばす

選手育成の為にストライクゾーンが広くなければならぬ。自分のやり方はあるけれども時代の流れに遅れていたり、相手方がそう感じ取れなかったならば全く意味がない。

その感じ方、捉え方、信頼関係を気づきあげるのはやはり7割の法則が大事である。

5、成功の可視化がモチベーションを高める

成功の可視化は選手のモチベーションを高めると共に勝負するチームの風土を作り上げ、その中で結果があれば成功を可視化できる選手が増えていく。

6、一期一会～すべての出会いに感謝する

帝京大学ラグビー部は留学生などいます。多くの文化、生活スタイルの違い、そのようなものとふれあい、違う悲しみ、喜びを分かり合うことで人間的に成長を成し遂げられる。

7、セルフ・イニシアチブ(主体的な思考力)～主体性のある人間を育てる

主体的な思考力とは自分からの自発的に物事考えて行動する自己解決能力です。坂本龍馬も一緒である。明治維新の歴史に名を刻んだ龍馬などは、自ら率先してリスクを冒しても行動をする。まさしくセルフ・イニシアチブを持った人間である。周囲の動向に流されない、自分が正しいと思った行動を追求する。そのようなたくましさ、力強さに現代を生きる私たちは感情を抱くのでしょう。

全国大会6連覇の達成は非常に素晴らしい。なかなか簡単に成し遂げられるものではない。この本を読み私自身もかなり多くの事に気づくことができました。結果がすべてではないかもしれませんが、全国大会6連覇をする事の凄さ、チームマネジメントなどを少しでも参考になればと思い紹介させていただきます。